

## 過重労働を背景とする事故関連事例の分析（180901-01）

### 平成 30 年度 研究結果の概要

研究代表者：山内 貴史

研究分担者：梅崎 重夫、平岡 伸隆、高橋 邦彦

#### 【研究目的】

わが国では長時間労働などの過重労働や、労働災害による労働者の人命・健康の損失が重要な政策課題となっている。本研究では、過労死等の労災認定発生率が高い業種を中心に、（１）背景要因として過重労働が疑われる事故事例の詳細な実態を明らかにすること、および、（２）わが国労働者の代表性を保持した大規模調査を行い、過重労働と事故およびヒヤリハットとの関連を明らかにすることを目的とした。

#### 【方法】

- ・ 1989 年から 2009 年までに発生した災害のうち、死亡労働災害又は重大災害が発生した災害の中から、「過労」、「疲労」又は「居眠り」という過重労働や睡眠不足と密接に関連する用語が存在している過労事故 58 件を抽出し分析を行った。
- ・ 国内の調査会社の協力を得て、20～64 歳の労働者モニター 30,000 人を対象に、職務要因、生活要因、過去半年間の業務中のヒヤリハット、および過去 1 年間の業務中の事故（墜落、転倒、激突、交通事故など）に関するオンライン調査を実施した。対象者は、「労働力調査」におけるわが国労働力人口の構成比をもとに抽出された。

#### 【結果】

- ・ 過重労働が疑われる事故事例のうち、業種では道路貨物運送業、土木工事業、その他の建設業が多かった。事故の型は交通事故が顕著に多く、発生時刻では午前 3～5 時が多かった。過重労働の種類では、深夜帯を含む勤務および拘束時間が長い勤務が多かった。
- ・ 労働者ウェブモニター調査の分析対象者 18,682 人のうち、29.1%の者が業務中のヒヤリハットを、5.0%の者が業務中の事故を報告した。ヒヤリハット経験は運輸・郵便業および医療・福祉で、事故経験は運輸・郵便業で有意に多かった。
- ・ 多重ロジスティック回帰分析の結果、ヒヤリハットについては週当たり労働時間が 41

時間超の労働者で、事故については週当たり労働時間が51時間超の労働者で有意に多かった。睡眠問題があることもヒヤリハット・事故の報告と有意に関連していた。

- ・ 運輸・郵便業を中心に、長時間労働や睡眠問題の有無とヒヤリハット・事故との関連は業種により異なっていた。
- ・ 構造方程式モデリングによる解析の結果、ヒヤリハット事例発生に対する労働時間の直接的な影響は、運輸・郵便業で有意な結果となったが、建設業および医療・福祉では有意とならなかった。一方、労働時間の増加にともなって、抑うつ傾向スコア、高ストレス者スコア、睡眠問題スコアの増大が認められた。高ストレス者スコア、睡眠問題スコアは、疲労という潜在変数を通してヒヤリハット事例発生に影響が認められた。

#### 【結論】

- ・ 過重労働が疑われる事故事例の分析の結果、深夜帯を含む勤務や拘束時間が長い勤務に関連したものが多かった。本来、人が睡眠を取るべき深夜帯での勤務や拘束時間が長い業務に起因する連続運転などが睡眠不足や疲労を招き、過労事故を誘発する原因と考えられた。
- ・ ヒヤリハット・事故の種類別の状況は業種によって異なっていた。運輸・郵便業を中心に、長時間労働や睡眠問題がある労働者で事故・ヒヤリハット経験が多くなっていた。
- ・ いずれの業種においても、長時間労働が高ストレスと睡眠問題を引き起こし、それらが労働者の疲労を介して、ヒヤリハット事例の発生につながることを示唆された。業種ごとの特性を考慮しつつ、長時間労働を中心とする業務の過重性を軽減することで、業務中のヒヤリハット・事故の減少につながる可能性が示唆された。

#### 【今後の展望】

研究代表者・分担者間で緊密に意見交換をしつつ、異なる切り口からの解析により、2019年度研究において業種別の業務関連指標と事故・ヒヤリハット発生状況との関連について明らかにするための環境が整えられた。2019年度には、引き続き過重労働が疑われる事故事例の詳細な分析を行う。また、1回目のウェブモニター調査の結果も踏まえつつ、同一対象者に対して2回目のモニター調査を実施し、結果の分析を行う。